



第12回

BRICS首脳会議

※2023年8月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

中国、インド、ロシア、ブラジル、南アフリカによる新興5カ国（BRICS）は24日、来年1月から新加盟国としてアルゼンチン、エジプト、エチオピア、イラン、

大国であり、アルゼンチンは隣国のブラジルが加盟を強く後押ししていた。核開発を巡り欧米と対立が続くイランの加盟もあえて認め

1 / 2

サウジアラビア、アラブ首長国連合（UAE）の6カ国を受け入れると発表した。南アの首都ヨハネスブルクで22日から開かれた首脳会議で、加盟国拡大について議論していた。「グローバルサウス」と呼ばれる新興国・途上国を結集し、欧米主導の国際秩序に挑もうとしている。

産油国のサウジとUAEには豊富な資金力があり、BRICSが独自に進める途上国向けの開発融資を強化できる。エジプトとエチオピアは人口が1億人を超える地域

首脳会議後の記者会見で、中国の習近平国家主席は「加盟国拡大は歴史的だ。BRICSの協力のメカニズムに新たな活力をもたらす」と意義を強調した。

ロシアのプーチン露大統領はウクライナ侵攻を巡る戦争犯罪で国際刑事裁判所（ICPO）から逮捕状が出ているため、現地訪問を断念し、オンラインで参加。本会議は23日にあり、24日にはアフリカをはじめとする各地の途上国首脳らを招いた拡大会議を開いた。

議長国の南ア政府によると、ア

ルゼンチン、チリ、イラン、サウジアラビア、ナイジェリア、インドネシア、タイなど23カ国・地域が公式に加盟申請していた。

BRICSは2006年に南アを除く4カ国で発足し、当初は首脳会議もない緩やかな外交グループだった。09年に初の首脳会議をロシアで開き、10年には南アが正式に参加して5カ国体制となった。近年は経済成長に伴う「自信」を背景に、欧米主導の国際秩序に挑む姿勢を強めている。BRICSの国民総生産(GDP)の合計は、11年には日本や欧米諸国で構成する主要7カ国(G7)の約4割だったが、最近では約6割に伸び、将来的な逆転も視野に入る。

22年にロシアがウクライナに侵攻して以降は、欧米諸国が制裁を加えてロシアの孤立を狙う一方、BRICS諸国はメンバーであるロシアとの関係を維持し、違いが際立つ。

加盟国拡大の議論は中国が議長国を務めた昨年から本格的に始ま

った。拡大により、BRICSをグローバルサウスの代表的グループとして急進力を高め、欧米に対抗する狙いがある。南アのバンドール国際関係・協力相も、首脳会議の場で「具体的な前進」を指すとして拡大に前向きな姿勢を示していた。

ただ、加盟国が増えれば、世界最多の人口と世界2位の経済力を持つ中国の主導権が強まる恐れもあり、インドなどには警戒感もある。ロイター通信は「グループが別物に変貌してしまう恐れがある」と、拡大に消極的なブラジル政府幹部の声を伝えた。